

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

居場所やサロンなど、地域資源が創出されてきているものの、高齢化率が高いエリアであることから、高齢者を中心とした生活上の課題は解消しきれてはいない状況です。自主事業参加者の高齢化や複数の個別支援から抽出される地域課題を地域住民と共有し、専門的な支援を受けながらも地域住民同士が支え合えるまちづくりを出来るよう支援します。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ケアプラザで相談を受けた時に、家族にも支援が必要であると判断した場合や子育て事業で相談を受けた場合、地域センター会議で作成した「みんなの相談窓口一覧」を活用し、支援チームを速やかに構成します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ケアプラザレベル地域ケア会議で情報を共有し、地域資源の必要性について気付きを促し、見守り組織等の立ち上げのための協議体の構築を目指します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	キャラバンメイトが、認知症サポーター養成講座を自治会町内会向けに実施出来るよう支援し、地域内での見守りが出来るようにしていきます。また、介護予防の活動をしているメンバーが、介護予防に取り組むことが出来る機会を増やします。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	子育て事業、認知症予防事業、障がい関係事業など、各自主事業におけるボランティアの育成を行います。 自主事業でのボランティア活動をきっかけに、ケアプラザの役割を知ってもらったり、地域の活性に重要な役割を担ってもらえるようにしていきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	住民主体によるサービスや地域の社会資源について、地域住民にはサロン・食事会など地域の方が集まる場所で情報を提供します。また、生活支援コーディネーターと地域包括支援センター職員が、居宅介護支援事業所を訪問して、各職種からケアマネジャーに情報提供をします。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

ひとりでも多くの見守りの目が必要であることを地域の方々とケアマネジャーが共通認識をもてるよう工夫してきました。たとえば、認知症サポーター養成講座を町内に出向いて開催し、その場にケアマネジャーの参加も呼びかけて、意見交換の場をもうけたり、地域ケア会議を開催したりしました。また、ケアマネジャーが地域の社会資源を積極的に取り入れることが出来るよう、社会資源リストやチラシをケアマネジャーに提供しました。  
ボランティア活動については、定期的な自主事業の場だけでなく、障がい児の余暇活動でもボランティアを募り、活動していただいたことで、障がい理解の普及啓発の場にもなりました。  
総合相談では、相談内容が多様多様、複雑化してきていることから、障がい関係機関や子育て拠点との会議を重ね、必要時、速やかに支援チームを構成することが出来るようにしました。

区からのコメント

・地域資源リストを継続して更新、地域分析を行い、地域住民等に対しても意識的にフィードバックしている点を高く評価します。また、居宅事業所を訪問して事例の提供を依頼するなど、関係者からも積極的に情報収集を行っている点を評価します。今後は、見えてきた地域の共通課題について、住民と共有し、課題解決に向けて取り組んでいけることを期待します。さらに、高齢分野のみではなく、子どもや障害分野についても、ケアプラザの場を活かしつつ、実際に活動の場に向いて課題抽出、支援を行っていただきたいと思ひます。